

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

| | | | | | | | | | |
|----------------|--|-------------|----|---------|---|------|----------------------|-----|----|
| 授業科目名 科目コード | 情報処理の基礎2 (Foundation of Information Processing 2) 393124-14700 | | | | | 担当教員 | 赤塚 浩一 (アカツカ コウイチ) | | |
| 科目区分 | 専門科目 | 必修・ 選択区分 | 選択 | 単位 数 | 2 | 配当年次 | 3年次 | 開講期 | 前期 |
| 科目特性 | 知識定着・確認型 AL、資格対応科目 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| ① 授業のねらい・概要 | | | | | | | | | |
| デジタル化社会においては、情報通信技術(ICT)を仕事や生活の中で活用する技能や知識が、リテラシーとして必須である。本授業では、情報処理技術者試験の中の IT パスポート試験が、職業人一般に対して求めている、情報技術に関する共通的な基礎知識の中の、ストラテジ系「システム戦略」、マネジメント系「開発技術」、「プロジェクトマネジメント」、「サービスマネジメント」分野の用語を理解し、仕事や生活の中で活用できるようになることを目標とする。 | | | | | | | | | |
| ② ディプロマ・ポリシーとの関連 | | | | | | | | | |
| 職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力を養う。 | | | | | | | | | |
| ③ 授業の進め方・指示事項 | | | | | | | | | |
| 本授業は主に講義形式で進める。各回の授業で小テストを実施し、次回授業時に解説を行う。テキストは必ず購入して授業時に持参する。必要に応じて、テキストを補完する資料を配付する。 | | | | | | | | | |
| ④ 関連科目・履修しておくべき科目 | | | | | | | | | |
| IT パスポート試験対応科目の「情報処理の基礎1」、「情報システムの基礎1、2」、「コンピュータネットワーク1、2」を履修することが望ましい。 | | | | | | | | | |
| ⑤ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安 | | | | | | | | | |
| IT パスポート試験の出題範囲「システム戦略」、「開発技術」、「プロジェクトマネジメント」、「サービスマネジメント」に関して次の達成レベルを目指す。 (i) 用語に関するいくつかの説明文から適切な説明文を選択できる。 (ii) 用語に関する説明の不足を補うことで、適切な説明文を作成することができる。 (iii) 計算問題を正しく解くことができる。 | | | | | | | | | |
| ⑥ テキスト（教科書） | | | | | | | | | |
| 「よくわかるマスター 令和4-5年度版 IT パスポート試験 対策テキスト&過去問題集」 FOM出版、ISBN 978-4-938927-42-4 | | | | | | | | | |
| ⑦ 参考図書・指定図書 | | | | | | | | | |
| 情報通信白書 令和3年版、4年版（総務省ホームページから無償でダウンロード可能、令和3年版は公開済、令和4年版は2022夏頃公開予定） | | | | | | | | | |

| ⑧ ルーブリック | | | | | |
|-------------|---|-------------------------------|-------------------------------|---|--|
| 評価項目 | 評価基準 | | | | |
| | S | A | B | C | D |
| | 到達目標を越えたレベルを達成している | 到達目標を達成している | 到達目標達成にはやや努力を要する | 到達目標達成には努力を要する | 到達目標達成には相当の努力を要する |
| (i) 説明文の選択 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を選択でき、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を選択できる。 | 資料等を参照することで、適切な説明文を選択できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けることで、適切な説明文を選択できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けても、適切な説明文を選択できない。 |
| (ii) 説明文の作成 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を作成でき、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 資料等を参照しなくても、適切な説明文を作成できる。 | 資料等を参照することで、適切な説明文を作成できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けることで、適切な説明文を作成できる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けても、適切な説明文を作成できない。 |
| (iii) 計算問題 | 資料等を参照しなくても、計算問題を正しく解くことができ、授業内容を越えた学修成果を示している。 | 資料等を参照しなくても、計算問題を正しく解くことができる。 | 資料等を参照することで、計算問題を正しく解くことができる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けることで、計算問題を正しく解くことができる。 | 資料等を参照し、教員等の支援を受けても、計算問題を正しく解くことができない。 |

| ⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法 | | | | | | | | |
|------------------------------------|------------------------------|------|----|------|-------|-----------|-----|------|
| 学習到達目標（評価項目） | 試験 | 小テスト | 課題 | レポート | 発表・実技 | 授業への参加・意欲 | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 60% | 30% | | | | 10% | | 100% |
| (i) 説明文の選択 | 25% | 20% | | | | 5% | | 50% |
| (ii) 説明文の作成 | 30% | 10% | | | | 5% | | 45% |
| (iii) 計算問題 | 5% | | | | | | | 5% |
| フィードバックの方法 | 各回実施の小テストの、解答説明と解説を次回授業時に行う。 | | | | | | | |

| ⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等） |
|--|
| ICT は技術者だけでなく職業人一般に必要な基礎能力・リテラシーになっている。ICT を利活用する者の視点で、理解を進めて頂きたい。 |

| ⑪ 授業計画と学習課題 | | | |
|-------------|--|-----------------------------|-----|
| 回数 | 授業の内容 | 授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物） | |
| 1 | イントロダクション （デジタルトランスフォーメーション） | 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 2 | 情報システム戦略 （経営戦略、経営品質、ビジネスモデル） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 3 | 業務プロセス1 （モデル化、業務フロー、テレワーク） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 4 | 業務プロセス2 （業務改善・効率化、プロセス変革） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 5 | ソリューションビジネス （付加価値、RPA、XaaS） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 6 | システム活用促進・評価 （リテラシー、デジタルデバイド） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 7 | システム化計画 （業務内容分析、システム化計画作成） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 8 | 要件定義 （機能要件・非機能要件） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 9 | 調達計画・実施 （契約、請負・委任・派遣契約、QCD管理） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 10 | システム開発技術1 （V字モデル、見積、設計） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 11 | システム開発技術2 （製造、テスト、保守・運用） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 12 | 開発プロセス・手法 （ウォーターフォール・スパイラル・プロトタイプ） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 13 | プロジェクトマネジメント （QCD管理、リスクマネジメント、PMBOK/CMMI） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 14 | サービスマネジメント （ITIL、SLA、ファシリティマネジメント） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |
| 15 | システム監査 （会計・業務・情報セキュリティ監査、内部統制） | テキスト該当部分の予習 講義関連情報の収集・分析 | 60分 |

| ⑫ アクティブラーニングについて | |
|---|--|
| 知識定着・確認型 AL | |
| ・毎回、授業内容に関する小テストを課し、小テストの答え合わせと解説を次回授業時に行う。 | |

※以下は該当者のみ記載する。

| |
|---|
| ⑬ 実務経験のある教員による授業科目 |
| 実務経験の概要 |
| I C T企業に勤務し、経営計画・事業計画の策定、インターネットを前提にした新規ビジネスモデルの構築・運用等を担当した。新ビジネス推進に欠かせない民法・個人情報保護法・知的財産権法等の法規制、マネジメントシステム、情報セキュリティ等の関連業務も並行して担当した。 また中小企業診断士・技術士として、県内外の中小企業の経営課題・技術課題の解決を支援してきた。 |
| 実務経験と授業科目との関連性 |
| デジタルトランスフォーメーション時代の、インターネットを前提にした新たなビジネスモデルの、企画・構築から運営までの全プロセスを知る者として、情報処理に関する広範な知識・技術を伝えることができる。 |